

議 事 録

件 名	久留米市セーフコミュニティ再認証現地審査 児童虐待防止対策委員会	
日 時	平成 30 年 7 月 31 日 (火) 14:55~15:50	
場 所	久留米シティプラザ 4 階 中会議室	
出席者	委 員	合原副委員長、新泉委員、吉岡委員、下川委員、鹿毛委員、平田委員、深堀委員 田原委員、酒井委員
	事務局	森 (家庭子ども相談課)
欠 席 者	早川委員長、重永委員、淡地委員	
傍 聴 者		
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 出席者紹介 3. プレゼンテーション発表 「児童虐待防止対策の取り組みについて」 4. 質疑応答 5. 閉会 	
質 疑 審 査 員 ①	<p>・包括的な報告をいただいた。すばらしい取り組みをされていることが分かった。虐待の多くは、産後うつが影響していることが研究で明らかになっている。そこから精神的疾患に陥り、子どもが命を落としているとの報告がされている。</p> <p>・児童虐待防止の取り組みについて、3つの側面から聞かせていただいた。まず、産後の母親について、子育てをしないといけないと感じつつも、ストレスが蓄積して、どうしていいのかわからない状況に陥らないよううまくアプローチされている。次に赤ちゃん自身について、望まずして産まれた赤ちゃんへの愛着が薄れがちになる中で、周囲がサポートするなど、赤ちゃんの愛着心を養うためのアプローチをうまくされている。さらに両者を取り囲む環境について、(子ども子育てサポートセンターにおいて) ワンストップでサポートしていることは、母子ともに心強い取り組みであると感じた。</p>	
審 査 員 ②	<p>・(委員①が、発表の最後に「赤ちゃんふれあい体験」を受けた中学生が卒業式でいい経験をさせてもらったと感謝の挨拶があり、とても感動したとの体験談を述べられたことに対し) すばらしいご報告をいただいた。</p> <p>・(スライド 11) 地域力(コミュニティの力)を強くしようとしている中で、個々にアプローチしている印象を感じた。母親同士が助け合う強みを活用できたらどうか?</p> <p>・(スライド 14) スウェーデンでは、出産直後、23ヶ月、59ヶ月の3つのフェーズに分けて、同じ月例の子どもを抱えた母親同士が悩みを共有し、励まし合う取り組みを行っている。子育てサロンの開催方法の一つとして参考にできればと思う。</p> <p>・(スライド 19) (赤ちゃんふれあい体験事業について) 大変すばらしい。数による評価だけでなく、質的部分に言及されていることが大切なポイントである。他国にも紹介したい事業である。</p>	

議 事 録

- ・(スライド 23) (2016 年度の連続講座「子どもの貧困にどう向き合うか」で) 子どもの貧困についてどう解決するのか?
⇒ (委員②) この課題の対応としては、さまざまな福祉の政策、親の就労、教育 (学校で子どもが貧困によって課題が生じていないかの状況把握) の政策がある。多くの政策化のアプローチが必要なので、今後、対策会議を開いて取り組みの方向性を決めたい。
- ・(スライド 28) 母親の次は、母親・父親を一緒にした取り組みをしたほうがいいのではないかと思う。サロンに夫婦が一緒に出てくると、いろんな夫婦の話を聞くことができ、自分たちの環境を客観的に見ることができるので、父親だけに目を向けるのではなく、母親・父親の両方に目を向けた取り組みを検討してほしい。
- ・(スウェーデンの取り組みの一例を紹介) 虐待に遭った子どもの背景として、親がアルコール中毒にかかっている人が多い。親はつらいことがあると、アルコールに頼ってしまい、それでコントロールを失い、子どもに思いをぶつけ虐待につながるケースが多かった。そこで、親子でそれぞれ 2 日間のトレーニングを別々に提供したところ、最高 90 パーセントの家庭で虐待がなくなった。同時に親のアルコール摂取量も減少しており、一定の効果が得られている。日本でもこのような形での虐待は少なくないと思われるので、参考にしてほしい。